6年生が作った新聞です

明倫（めいりん）小新聞

学校概要

【学校名】倉吉市立明倫小学校
【所在地】倉吉市余戸谷町３０５９番地
【校長名】長田美穂
【児童数】１２１人
【教育目標】人としての生き方を学び、共に高まり合う子どもの育成

【沿　革】
１９０９年　明倫小学校設立
１９５５年　鉄筋３階建て円形校舎落成
１９７６年　現在地へ校舎移転
２００９年　創立１００周年記念式典開催

教育に新聞を NIE Newspaper in Education

地域の良さを再発見！

全校児童で「めいりんウオーク」

知らない歴史に触れる

「明倫教育発祥（はっしょう）の地」を巡る児童ら

明倫小の全校児童でつくる縦割りの「なかよし班」の活動として、倉吉市明倫地区を歩き、地域の良さを見つける学習が「めいりんウオーク」だ。昨年度はみどり町や八幡町方面を巡り、本年度は福吉町や西岩倉町などを歩いた。9月の猛暑の中なので、水分をしっかりとって熱中症予防を心がけることで、楽しく活動することができた。

ウオークでは、コースに沿って歴史ある建物や場所をチェックポイントとして歩く。本年度のポイントには「明倫教育発しょうの地」（同市鍛冶町）や「倉吉淀屋」（同市東岩倉町）などが含まれる。

場所によっては、地域の方が説明をしてくださった。また、ボランティアで保護者が一緒に歩いてくださる班もあった。

地域の方がおられないポイントは、6年生がその場所の歴史や良さを説明する。児童は説明を聞いたり、建物を見学したりした後に、一人一人が持っているカードにシールを貼り、集合写真を撮った。

実際に歩いて見学すると、今まで気付かなかった建物を見て、知らなかった歴史に触れることができた。

3年生の福井桜さんは「倉吉淀屋が外側から見ると2階建てだと分からないように建てられているところにびっくりした」と話した。

（湯浅由依、佐治航太）

2年生担任と給食を食べる3年生児童

いろんな先生と交流

チーム担任制

明倫小では本年度、「チーム担任制」という取り組みをした。これは担任以外の先生方と、朝の会や給食時間を一緒に過ごすものだ。期間中の１週間、先生方が各学年の教室を１日ずつ交代で回り、児童はたくさんの先生と関わりを深めた。

１学期には１回、２学期には２回、３学期には１回実施。６年生の教室では、朝の会の時に来られた先生の小学生時代の話を聞かせてもらった。また、修学旅行を通して学んだことを普段の生活に生かすためのアドバイスをもらったり、先生についてのクイズを出してもらったりした。

給食時間は、みんなで机を円にして先生に質問したり、勉強についての話をしたりした。

この取り組みについて、５年生の林陽斗さんは「他の先生と一緒に過ごせて楽しかったし、好きなことや趣味などを聞いて先生のことを知ることができた。またしてほしい」と次回を心待ちにしていた。

同担任制を提案した長田美穂校長先生は「先生方がこれまで知らなかった子どもの姿を見たり、それぞれの学級や子どもの良さを見つけたりすることができた。今後は、休憩時間や授業の時間にも子どもたちが一緒に過ごせるようにしていきたい」と述べた。

（小坂彩雲、鈴本一貴、佐藤優月）

きれいに咲いて

小鴨川河川敷で畝作りや種まき

菜の花プロジェクト

明倫小では5～6年生の児童が、校区内の館長会や老人クラブなど地域の方と一緒に「菜の花プロジェクト」に毎年取り組んでいる。同プロジェクトは、2009年に倉吉市の小中学生が、倉吉をもっと良くしようと話し合った「淀屋サミット」で決まった行事だ。

本年度は、畝作りを昨年9月24日、種まきを同30日に小鴨川の河川敷で行った。6年生は、くわで土を耕して畝を作り、5年生は菜の花の種を丁寧にまいた。今回は4年生も種まきに加わった。

同プロジェクトに協力している明倫地区振興協議会長の米舛隆生さんは「農業の経験がなかったが専門の方に教えてもらった。時々河川敷に来て、子どもたちに観察してほしい」と話した。

種まきをした4年生の亀井糸花さんは「早くきれいな菜の花が咲いてほしい。もっと花のことを知って自分で植えてみたい」と開花を楽しみにしていた。

（田村羽絆、市村司）

地域の方との畝づくり作業

みんな笑顔の引き分け

赤白 白熱の運動会

一番の盛り上がりを見せた「大玉おくらいや」

明倫小の運動会が昨年5月18日、校庭であった。赤白2色のチームに分かれて競技をする。1年間の中でも全校が盛り上がる行事の一つだ。本年度も赤白の団長が全校児童をリードして、一生懸命応援する姿が見られた。

一番盛り上がったのは、赤白のチーム対抗で大玉を早くゴールまで運ぶ競技「大玉おくらいや」だ。団長以外のみんなで大玉を転がしていき、最後に渡された赤白の団長が、フラフープの中に大玉を入れるとゴールとなる。

大玉を次の人に渡す時に止まったり、コースの外側に広がっていったりするなど、どきどきする場面がたくさんあった。どちらのチームからも「行け行け、もっと押して！」などの声が飛び交った。この競技で、1年生から6年生の仲が深まった。

全競技を終えて閉会式で発表された結果は、明倫小史上初の赤513点、白513点。なんと同点だった。点数を聞いた児童は珍しい結果に驚いた表情だったが、「引き分け」という結果にみんなが笑顔になった。

（河野心結、岩室綺愛来）

生木さんと打ち合う児童代表の2人（右）

「楽しむことが一番」

バドミントン「チアフル鳥取」生木選手から学ぶ

トップアスリート授業

明倫小では昨年に続き、トップアスリートを招いた授業を本年度も実施した。今回は、鳥取市を中心に活動するバドミントンの実業団チーム「チアフル鳥取」の生木萌果選手を招き、話を聞いたり、プレーする様子を見学したりした。

チアフル鳥取は「2024バドミントンＳ／ＪリーグⅡ」で優勝し、来季のリーグ１部昇格を果たした。次年度は最上位の「Ｓ／Ｊリーグ」で戦う。

生木さんは「何かを続けていれば辛くなることもあるが楽しむのが一番」と自身が大切にしている言葉を児童に語った。

生木さんが実際にプレーする姿を見せてもらい、バドミントンをしている代表児童数人と生木さんが打ち合う姿が会場を盛り上げた。

２年生の弓手千歳さんは「生木さんが『楽しむことが一番』と言っていたので、習いごとで失敗しても楽しんでやりたい」と話した。

（上村蓮旺、下田凛音）

１年間の学びに感謝

教科書まつり

「勉強するのが楽しみ」

献花をする児童ら

今年で68回目となる明倫小伝統行事の一つ「教科書まつり」が2月21日、開かれた。教科書を使って学習したことをテーマに、学年ごとに詩の朗読、リコーダー奏、歴史の紹介などを発表。各学年代表が教科書に対する思い出を語った。

全校児童で「教科書まつりの歌」を歌い、体育館いっぱいに全校児童の元気な歌声が響き渡った。歌詞には「しっかりべんきょうしたしましょう」「よいことたくさんおぼえましょう」と、教科書を使って勉強することに対する強い思いが表れている。

この行事に初めて参加した1年生の村岡航太朗さんは「これからも教科書を使って勉強するのが楽しみ。新しい教科書も大切に使いたい」と目を輝かせた。

（井中詩、吉田そら）